

## ○症例報告：学会発表

### ・症例報告のまとめ方

パワーポイントに沿って、発表したい内容をまとめると、抄録も簡単に完成します。

### ・同意書

患者には、個人が特定できないように配慮し学会等で発表することに同意を得る、アウトプット形式を採用しています。

アウトプット形式とは、「当院は〇〇〇のデータを分析検討して学会等で発表しております。個人が特定出来ない形でデータを使わせていただいております。」と断り、データを使ってほしくない方に申し出ていただく方式です。

申し出がない限りデータを使えます。もちろん個人が特定できないようにする事は必要です。症例の中で写真を使用する時は、必ず同意書が必要になります。

↑

※小児はり学会で一定のフォームを作成する必要あり。

スライド 1

PMSに対する鍼灸治療の効果  
-3症例報告-

所属<sup>1)</sup> ○×△大学<sup>2)</sup>      氏名<sup>1)</sup> 小児 花子<sup>2)</sup>

○発表のテーマを決めます。

○所属と氏名を記入します。

当てはまる所属の番号を、氏名の右上に記入します。

スライド 2

(発表する学会名を記入)  
利益相反 (COI) 開示  
氏名

演題発表に関し、開示すべき利益相反 (COI) 関係にある企業などはありません。

○利益相反がある時は、その旨書きましょう。

スライド 3

◆目的 (例)

今回は...

- ・対象者を、PMS(月経前症候群)を主訴とする3症例に限定した。
- ・MDQ8尺度の中から、優しい気分になる、素直になる等のポジティブな変化である、**気分の高揚を除く**、MDQ大項目7尺度の変化を研究したので報告する。

○目的に記入すべき事

- 1) 研究の目的を記入
- 2) 先人の研究から今回の研究に至った経緯
- 3) 何を検討報告するか等を記入する。

スライド 4

◆方法1 (例)

対象者 : 当院に来院した初診患者の内、PMSを主訴とする3名。

弁証タイプ: ①**陰虛**タイプの症例  
②**血虛**タイプの症例  
③**氣滯**タイプの症例

○方法

- ・各症例のタイプを分類する。
- ・タイプは弁証タイプに限る必要はない。
- ・1症例の場合は、なぜ選んだのかを目的に含めてもかまわない。

スライド 5

◆方法2 (例)

調査時期: 初診時前(以下治前)  
最終データ(以下治後)

評価判定: 治前と治後を比較した

評価方法: MDQ7尺度41項目を、【症状なし】～【激しく存在】までの6件法で回答してもらい、0～5点の順序得点に換算した。  
参考: Moos (1968) の尺度。

○方法

- ・臨床経過をどのように観察したかを述べる
- ・調査時期、評価判定、評価方法、調査項目が明確な方がわかりやすい。

◆方法3 問 (MDQ)

調査項目:

- 陰虚・血虚・気滞 3タイプのMDQ大項目7尺度の比較

気分の高揚を除く、水分貯留(4項目)、集中力(8項目)、否定的感情(8項目)、行動の変化(5項目)、痛み(6項目)、コントロール(6項目)、自律神経失調(4項目)の合計スコアの平均

◆方法4

治療方法:

- 全身調整: 随証治療による配穴
- 局所治療: 次髎(BL32) } → 鍼
- 三陰交(SP6) } → 灸
- 腰俞(GV2) } → 灸
- 関元(CV4) } → 灸

治療頻度: 1~2週に1回とした。

○方法

- ・治療方法は明確にする。
- ・再現できるように、具体的に記入する。

◆局所治療部位

\* 次髎<BL32> (40mm 16号)

\* 腰俞<GV2> (9分灸)

\* 関元<CV4> (9分灸)

\* 三陰交<SP6> (9分灸)

- ・PPT は図にするとわかりやすいです。

スライド 9

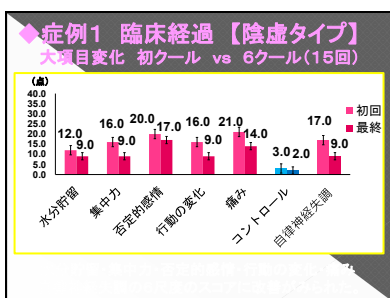
- ・調査シートがある時は紹介する。

スライド 10

○症例に記入すべき事

- ・他に家族歴、病歴等を記入。
- ・症例：○歳、男or女(性別)
- ・主訴：
- ・既往歴：
- ・家族歴：父、母等病歴
- ・現病歴：詳しく
- ・現症：身長、体重、脈、舌、腹診等
- ・初見：
- ・治療：1症例の場合は、ここに書いても良い(詳しく誰でも再現できるようにする)

スライド 11



- ・臨床経過：治療頻度、治療回数、評価方法は判定基準に沿って記入する。

スライド  
12

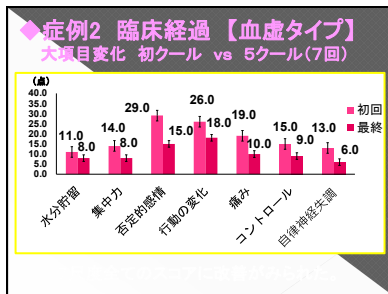
◆症例2【血虚タイプ】

年齢：  
PMS症状：  
舌診：  
弁証：  
調査期間：  
治療回数：

○症例に記入すべき事

- ・他に家族歴、病歴等を記入。
- ・症例：○歳、男or女(性別)
- ・主訴：
- ・既往歴：
- ・家族歴：父、母等
- ・現病歴：詳しく
- ・現症：身長、体重、脈、舌、腹診等
- ・初見：
- ・治療：1症例の場合は、ここに書いても良い  
(詳しく再現できるようにする)

スライド  
13



- ・臨床経過：治療頻度、治療回数、評価方法は判定基準に沿って記入する。

スライド  
14

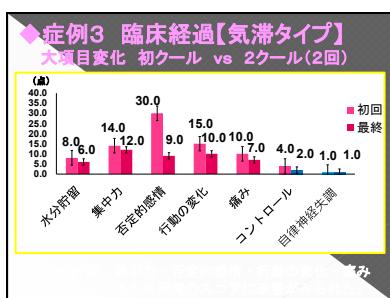
◆症例3【気滞タイプ】

年齢：  
PMS症状：  
舌診：  
弁証：  
調査期間：  
治療回数：

○症例に記入すべき事

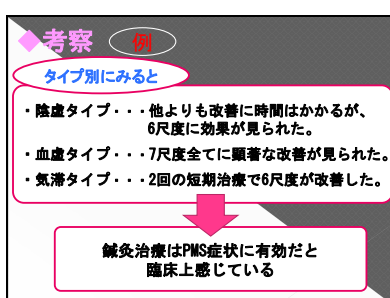
- ・他に家族歴、病歴等を記入。
- ・症例：○歳、男or女(性別)
- ・主訴：
- ・既往歴：
- ・家族歴：父、母等
- ・現病歴：詳しく
- ・現症：身長、体重、脈、舌、腹診等
- ・初見：
- ・治療：1症例の場合は、ここに書いても良い  
(詳しく再現できるようにする)

スライド  
15



・臨床経過: 治療頻度、治療回数、評価方法は判定基準に沿って記入する。

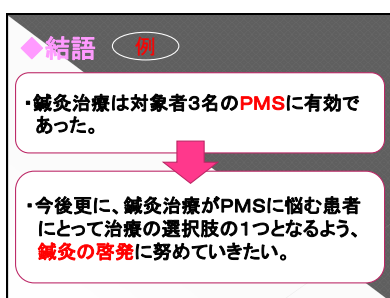
スライド  
16



○考察に記入すべき事

・目的、方法、結果をふまえて的確に考察する。

スライド  
17



○結語に記入すべき事

・目的に対して、検討した事のまとめを記入する。  
・今回の至らなかった点から、次回どうしたいのかを記入しても良い。



○引用文献は、グラフや表の引用がある場合、必ず学会にお問い合わせください。